景観まちづくり市民会議委員がオススメ

私のとっておきの「下田まち遺産」

高 根 山 たかねさん

＜紹介者＞
下田市景観まちづくり市民会議副会長　水 口 順 策 さん（あんしん住宅一級建築士事務所　代表）

高根山の山頂から望む景色

国が定めた景観法により景観を守っていきたい市町村が独自の景観計画を作ることが可能になった。下田市もそれに手を挙げた。私は根っからの下田市民ではないが、そこで下田の景観計画に関わることになった。学者や知識人、市民を交え下田市の景観計画づくりがはじまった。３年をかけてそこから他には類のない特質すべきものが生まれてきた。それが「下田まち遺産」の登録制度である。「まち遺産」と「景観」との関係は何だろうか？

私は下田の河内に住んで１８年になる。その河内地区を毎日見下ろしているのが「高根山」だ。高根山の印象と言えば、大きなアンテナがあって時々何かのお祭りをしていることぐらいだった。ところが 10 年ほど前あることを聴いて愕然とした。豆陽中学（現下田高校）へ通う白浜の学生は高根山を徒歩で越えて通っていたという。嘘かと思った。運動靴はあったのだろうか。まさかわらじを履いて山を越えていたわけではあるまい。夜道は月明かりをたよりに歩いたのだろうか。猪に出くわさなかったのか。興味は湧くばかりだ。これは行ってみるしかない。私もすぐに挑戦した。白浜のプリンスの近くのわき道から車で入り中腹までいった。そこから山を登り河内に降りてきた。途中は山道というよりも、けもの道である。急斜面も多い。ここを朝晩通った学生はどれだけ心身が鍛えられたことか。伝統的に豆陽中学の卒業生の評価が高かったのも理解できる。

高根山近辺には杉やヒノキの植林が点在する。河内地区に、「河内同志会」という組織があることを聞いた。大正時代に設立された民間の組織である。設立当初の目的は天災事変時への復旧助成、児童教育の資金給貸付、高齢者慰労などであった。その財源は高根山を含めた近辺の山からの植林による材木販売であった。下草刈、枝打ちを行い、木を育てお金にした。この事業を河内地区の有志が無償で行っていたという。なんと誇らしいことか。

白浜で海の生活をしていた人にとっても高根山は大切なものだったと聞く。すぐれた漁師は海上の良い漁場を覚えるためその位置を山頂との関係を見て決めていたという。

白浜側からの朝日は最初に高根山の山頂を照らし、河内側からの夕日は最後まで高根山の山頂を照らす。一日中照らされている場所のため霊的な場所とされた。闇夜に難破しそうになった廻船を助けてあげた高根地蔵尊の伝説も有名な話である。

このように高根山はその周りに住む多くの人の生活に関わりがあった。しかし便利になった昨今ではそのような実感はあまりない。それでも満月に高根山付近に大きな月がゆっくりと上がり、暗い山の稜線の真上からこうこうと光りを放ちながら顔を出すのをみると感動する。河内地区の人にとっては大切な山だと思う。

毎日の生活の中で目に入る「景観」を特別に意識することはない。しかしそれらは先人がその時代に生活とともに関わりながら存在し続けている。それをもう一度見つめなおすことで、今の私たちの生活がより豊かになるきっかけになったらいいと思う。そのヒントを与えてくれるのが下田の「まち遺産」だと思う。

下田まち遺産を皆さんと共に未来へ

「下田まち遺産」とは下田の人たちが昔から大切にしてきたもの、これから新たに大切にしていきたいもののことです。

美しい砂浜や歴史的な景観、伝統や人の営みによって育まれる地域文化などは、まさに「下田まち遺産」です。これは時代が変わっても人の心に残り続ける下田の誇りとなります。下田を象徴する歴史や文化などは、私たちや次の世代の財産でもあります。私たちはこの歴史や文化を様々な分野の人たちと協力し、保全・活用しながら次の世代に引き継いで行かなければなりません。これらを未来に活かすためにも、私たちの力を合わせる必要があります。どうか、皆さまのご理解, ご協力をお願いします。

「下田まち遺産」は市内外の方々から提案された事例を市民の代表者が集まる「景観まちづくり市民会議」で審議し、意見を集約した上で、下田まち遺産ギャラリー等を開催、最終的にはアンケートによる「市民の声」をもとに、下田市が決定しています。（前回おこなった下田まち遺産ギャラリーでのアンケート回収数 254 件）

現在、認定された「下田まち遺産」は 130 事例。今後も認定された数だけ増えていきます。認定された中でも、「下田登録まち遺産」は維持・保全のために助成制度もご用意しております。

下田まち遺産ニュース その１

「下田登録まち遺産」を補修工事。

歴史的な建物は歴史的景観を守る上で重要となります。下田市では下田登録まち遺産の建物に対して、補修の際にかかる費用の一部を助成しております。最近行われた助成物件を２つ紹介します。

修繕前

修繕後

事例その１ 雑忠 壁面（漆喰）の補修

長年の風雨に加えて、昨年６月の台風の影響により、蔵部分の漆喰が剥がれ落ちてしまいました。このままでは水が内部に入り深刻な問題を引き起こします。この場所は通りに面した場所でもあり、安全性も考え、残った漆喰を剥がし落とした上で修繕をおこなってくれました。市としても景観と安全を両立する工事の負担の一部であり、助成という形で応援させていただきました。

修繕前

修繕後

事例その２ 草画房 戸袋工事

昨年６月の台風の影響により、ペリーロードに面した場所の戸袋が壊れました。修理の過程で、長年の雨水により腐食が戸袋全体に進んでいることがわかりました。この場所は下田の景観にとって最も重要な場所の一つであり、景観重点地区の候補地と位置づけられています。そのため、市としても所有者の修繕費の一部を助成させていただきました。

下田まち遺産ニュース その２

「橋梁の手すり」を景観に配慮した色に。

下田温泉会社では蓮台寺川にかかる橋の塗装の際、この場所が景観誘導ゾーン（蓮台寺温泉）に位置するため、色彩には特に配慮していただきました。具体的には下田市景観まちづくり審議会で意見を聞き、景観に少しでも馴染むように焦げ茶色にしていただきました。

修繕前

修繕後

下田まち遺産ニュース その３

「緑化用特殊モルタル」で崩落防止と景観配慮。

伊豆の交通機関の要である伊豆急行は、高根山の麓の下田市河内において崖のモルタル吹き付け工事を行い、落石防止と崖の補強を行う予定でした。しかし、安全と景観への影響を検討した結果、崖の上部は国道４１４号線やお吉ヶ淵から見えてしまい、景観に影響が出てしまう可能性があります。そのため下田市では下田市景観審議会へ諮り、伊豆急行と話し合いを重ねた結果、崖の上部を緑化用の特殊モルタルで吹き付けることで、安全と景観への配慮を両立していただきました。

点線で囲った面が徐々に緑化していきます。

下田まち遺産ニュース その４

「カフェ櫛田蔵」オープンしました。

本誌前回号で取り上げた「カフェ櫛田蔵」が１月吉日オープンしました。外観や構造体はそのままに、蔵の石壁なども活かした改装工事を施し、新しいカタチの下田登録まち遺産としてスタートを切りました。